

ふくい日曜エッセー 時の風

私はこれまでに12冊の単著本を刊行してきた。最初は1997年、40歳のときに大和書房から出版された『遺伝子は35億年の夢を見る』である。この本を米留学時代の師、根井正利先生に謹呈したところ、「遺伝子は夢は見ないよ」と言われてしまった。そう言われても、編集者の強い希望でこのタイトルになったのである。

12冊の単著本刊行

は今度私がお願いしてつけていただき、表紙も私の点描画を使ってもらった。「ゲノム」という単語が著書名にはいった最初の本である。

翌年にはちくま新書『DNAから見た日本人』を刊行した。この本にはDNAだけでなく、言語についても考察を盛り込み、福井弁のような無アクセントが縄文時代から連続してきているのではないかと、方言学者山口幸洋氏の説を紹介した。

このころ雑誌数理科学に「ゲノム進化の最前線」という連載をしていた。15回分をまとめたものが07年にサイエンス社から『ゲノム進化を考えるシステム樹の数理から脳神経系の進化まで』として刊行された。同年には共立出版から『ゲノム進化学入門』という教科書を刊行した。こちらは10年以上前から依頼されていたのだが、なかなか書き終わらなかったのだ。

すっかりゲノムづいてしまったが、科学の歴史にも興味のある

興味を赴くまま知力傾け

つた私は、09年に『自然淘汰論から中立進化論へ』進化化学のパラダイム転換』をNIT出版から刊行した。この本でも私の点描画2枚を構成した表紙となっている。

2009年はダーウィン生誕200周年だったので、ダーウィン関係の書籍がいろいろ刊行された。私にも筑摩書房からなにか書いてほしいという依頼があったが、書くのが遅いので、結局『ダーウィン入門』をちくま新書から刊行したのは11年になってしまった。

英語の本も書いてみたくなった。『ゲノム進化学入門』をもとに研究の進展を反映させたものを、海外の出版社とつながりのある知り合いの研究者に打診したところ、刊行にこぎつけた。それが『Introducti



国立遺伝学研究所特任教授 齋藤 成也

さいとう・なるや 1957年鯖江市生まれ。東京大理学部生物学科卒、米国テキサス大大学院修了。国立遺伝学研究所特任教授。文部科学省の新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」領域代表。専門はゲノム進化学。著書に「日本列島の歴史」「核DNA解析でたどる日本人の源流」「人類はできそこないである」など。

Onto Evolutionary Genomics』であり、シュプリンガー社から13年に刊行された。

その後も日本語の単著を次々に刊行した。15年に岩波ジュニア新書『日本列島の歴史』を、16年に『歴史主義宣言』をウェッジから、17年に河出書房新社から『核DNA解析でたどる日本人の源流』を、18年には13年に出した英語の教科書の改訂版と、毎年出版が続いた。

最新の単著は21年SB新書『人類はできそこないである』。この本は私が編集者に話した内容をもとにライターがさらに調べて膨らませたものであり、共著的な色彩が強い。

前回佐々木閑氏との共著は紹介したので、わたしの最初の弟子太田聡史氏との共著、勁草書

房20年刊『ラリルレロボットの未来』について紹介しよう。動かないロボット、指令を受けて動くロボット、人間が中に入っている動くロボット、自身の判断で動くロボット、ヒト型のロボットという、ロボットを5段階に分類したものである。意欲作だが、売れ行きはよくない。

7月に13冊目の単著『ゲノム進化学』を脱稿した。本年度中には刊行される予定だ。こちらは私が共立出版に刊行を依頼した。このほか、数年まえに執筆を依頼された本が3冊あり、今後またせっせと書かなければならない。いつのまにか多様な内容の著書を書いてきたが、研究論文も人類進化、遺伝子進化、系統樹、ゲノム解析と多様である。興味を赴くままに自分の知力を傾けているだけなのだ。